

「第 21 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 2 年 1 1 月 2 6 日 (木) 1 3 時 0 0 分
都庁第一本庁舎 7 階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第 21 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日の会議には、感染症の専門家といたしまして、東京都医師会副会長の猪口先生と、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生にご出席をいただいています。なお、東京 iCDC 専門家ボード座長でいらっしゃいます賀来先生につきましては、所用で本日はご欠席をされています。

それでは、早速ですが「感染状況・医療提供体制の分析」に移りたいと思います。まず、「感染状況」につきまして、大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

それでは、ご報告いたします。

「感染状況」、総括の状況であります、「感染が拡大していると思われる」と、赤の印ということでございます。上から 1 番目です。

状況としては、急速に感染が拡大しております。極めて深刻な状況になる前に、感染拡大の防止策を早急に講じる必要があると考えております。

特に今週、重症化リスクの高い高齢者の新規の陽性者数が増加しておりまして、高齢者への感染の機会を、あらゆる場面で減らすことが必要と考えております。

それでは、内容に入って参ります。

まずは、①の「新規陽性者数」でございます。

毎回紹介しております都の外で採取された検体が、都内の医療機関に送られて検査されて、その結果、陽性と報告される数、これは東京都での発生者ではないということで、新規陽性者から省いて数えておりますが、今週は 80 人ございました。

まず、①-1、新規陽性者数の 7 日間平均でございますけども、前回は約 326 人ございましたが、今回は約 400 人と大幅に増加しております。これは、これまでの最高値でございます。前々回 11 月 11 日時点で約 244 人でしたので、今回 2 週間で約 1.6 倍まで増えております。

この増加比であります、前回は約 133%、今回は 123%でありまして、高い値で推移しております。

新規陽性者数がこのように急増しておりまして、週当たり 2,800 人を超える非常に高い水準となっております。10 人程度の小さなクラスターが多発しまして、急速に感染が拡大

しているという状況でございます。このまま増え続ければですね、通常の医療が圧迫される深刻な状況となります。予定されている手術といったものが受けられなくなると、そういう状況が来ます。

増加比ですけれども、約 123%であります。この増加比のまま 4 週間継続すると、新規陽性者数は約 2.3 倍、計算しますと、1 日当たり 920 人となります。感染防止対策を早急に講じる必要がございます。

また、患者の重症化を防ぐ、この観点からは、陽性の方を早く見つけるということが非常に重要であります。

感染の拡大を防止するという点からも、熱があるですとか、咳がある、痰が出る、あるいは全身がだるい、こういった症状がある場合には、必ずかかりつけ医に電話相談するというのを、啓発が必要と考えております。かかりつけ医がない場合は、東京都の発熱相談センターに電話相談することなど、都民に対する啓発が必要と考えております。

①-2 にお移りください。年代別の分布でございますが、10 歳未満が 1.6%、10 代が 5.1%、20 代が 25.7%、30 代が 18.7%、40 代が 16.3%、50 代が 15%、60 代が 8%、70 代が 6.1%、80 代が 2.9%、90 代以上が 0.6% ございました。

①-3、高齢者の数字に移ります。今回、新規陽性者数に占める 65 歳以上の高齢者の患者さん、この割合ですけれども、前週が 274 人、全体の 13.2% でしたが、今週は 390 人、全体の比率としては 13% でありました。比率は変わらないんですけども、実数の患者数としては、これは大幅に増加しております。

このように重症化リスクの高い高齢の方の新規の陽性者数が大幅に増加しているという状況がございます。高齢者への感染の機会をあらゆる場面で減らすことが必要と考えております。

次に、①-4 に移ります。濃厚接触者の状況であります。感染経路の割合でございますが、前週と同様に、同居する人からの感染が、今週は 40.7% と最も多い状況です。次は職場での感染であり 19.9%、施設が続きまして 13.4%、会食 7.1%、接待を伴う飲食店等が 2.5% ございました。

年代別で見ていきますと、80 代以上を除くすべての年代で、同居する人からの感染が最も多いという状況でございます。その次に多かったのは、20 代から 60 代は職場でございます。10 代以下と 70 代になると、施設です。そして、80 代以上では施設での感染が 50% と最も多い状況です。

同居する人からの感染が最も多いというのは、続いている傾向でございますが、職場、施設、会食、接待を伴う飲食店と、本当に様々な場で感染例が発生しています。

また、職場ですとか、会食といった家庭の外で感染した人が、家庭内に新型コロナウイルス感染症を持ち込んで、同居をする方にうつした。そういう事例が非常に多く見られています。このような人と人が暮らす場である職場ですとか、施設、あるいは寮、こうした共同生活、あるいは家庭内等での感染を防ぐということが非常に重要でありまして、今一度、こう

した場ですね、基本的な感染防止対策である、「手洗い、マスクの着用、3密を避ける」、環境の清拭や消毒、それらを徹底する必要があると考えています。

また、これからますます寒くなってきますが、外が寒くて暖房を入れていてもですね、窓やドアをきちんと開けて風を通すといった効果的な方法で換気を行っていくことが重要であります。

また、人と人が密に接触し、マスクを外すこと、長時間または深夜にわたる飲酒、複数店にまたがって飲食や飲酒を行うこと、大声で会話をする、これらの行動に伴って、感染のリスクは著しく高まります。

年末年始は、忘年会、新年会、初詣といった大人数で集まる、長時間におよぶ飲食の機会、あるいはイベント、これらが増えると想定しております。

こうした場、あるいは会食やイベント、特に多くの人々が密集して、かつ、大声などの発生を伴う行事、あるいはパーティー、これらは感染リスクが増大します。この結果、新規陽性者数がさらに増加することが懸念しております。

また、在留外国人の方々は、年末年始に向けて、ご自身の国の伝統あるいは風習に基づいて様々なお祭りや集まりがございます。そこで密に集まって飲食等を行うということが想定されています。言語あるいは生活習慣の違いにしっかり配慮して情報提供を行うということ、あるいは医療機関にすぐにかかれるようにといった支援、これらが必要と考えております。

それでは、①-5に移って参ります。今週の新規陽性者数 3,002 人のうち、無症状の陽性者数は 586 人でございました。割合は 19.5%と高い値で推移してございます。

職場に陽性者が出たということで、自発的に検査を受ける方もおられますし、保健所が積極的に濃厚接触者等の調査を行ったということで、無症状の陽性者が早期に診断されたと考えています。これが感染拡大の防止に繋がるということを期待しております。

また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、病院、これら重症化のリスクの高い方のおられる施設、あるいは訪問看護の場といったところで、クラスターが出ております。ですので、こうした施設、高齢者施設ですとか、医療施設に対する積極的な検査の実施が求められております。

次に、①-6に移って参ります。保健所別の届出数でございます。今回、みなとが 239 人、8%と最も状況でございます。次いで、足立が 210 人、7.0%、大田区が 173 人、5.8%、世田谷と新宿は同数で 150 人、5.0%の順でございました。新規陽性者数が急増しております。

都内の保健所の約 4 割にあたる 12 の保健所で、100 人を超える新規陽性者数が報告されているという状況でございます。

次に、②「#7119 における発熱等相談件数」に移って参ります。

我々は、これを感染拡大の早期予兆の一つとして見ておるわけですが、今回の #7119 の 7 日間平均は、前回 57.9 件から、今回は増えておまして、70.7 件でございました。

次に、③「新規陽性者数における接触歴等不明者数・増加比」でございます。

接触歴等不明者数は、7日間平均で前回の約183人から11月25日時点の約230人と大幅に増加しております。

もともと高い水準できておったわけですが、この接触歴等不明者数が前週に続いて増加しているという状況でございます。

次に、③-2に移ります。新規陽性者数における接触歴等不明者数の増加比でございますけれども、こちらは前回約133%から今回127%というところでございました。引き続き高い数値でございます。

この約127%という数値ですけれども、これがこのまま4週間継続すると、接触歴等不明の新規陽性者数は約2.6倍、1日当たり約600人程度発生すると考えております。このように感染が急速に拡大しております。通常の医療が圧迫される深刻な状況が、もう目の前に来ております。早急に感染防止対策を行う必要があると考えております。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

「医療提供体制」に関して、お話をさせていただきます。

総括のコメントとしては、「体制強化が必要であると思われる」ということで、上から二つ目、橙のままとしております。

中等症以上の患者のさらなる増加に対応できる病床の確保が急務である。今後、重症患者数の増加が予想され、通常の医療体制との両立が極めて困難になると思われる。中等症用病床それから重症用床、どちらも新規陽性者の増加に伴いまして、将来的にかなり圧迫されてくることが考えられるので、それを今、準備しなくてはいけないという状況です。

では、④「検査の陽性率」をご覧ください。

7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の5.8%から6.6%に上昇しました。

また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の5368.7人に対し、5506.1人であり、数的には通常通り検査されています。

検査数は横ばいでありましてけれども、それ以上に新規陽性者数が増加しているため、陽性率は上昇しています。それは、複数の地域や感染経路でクラスターが発生しているためで、その推移に警戒をする必要があります。

感染リスクの高い地域や集団及び重症化するリスクの高い高齢者施設などに対して、感染拡大抑止の観点から、無症状者も含めた集中的なPCR検査を行うなどの戦略を行っております。無症状者が増加しているのは、積極的な検査が奏功している可能性があります。

現在、PCR検査については、最大25,000件/日の検査能力を確保しております。

都は、東京 iCDC のタスクフォースの提言を受けまして、東京都医師会等と連携し、年末年始の検査体制の充実を図ることとしております。

⑤「東京ルールの適用件数」です。

東京ルールの適用件数の 7 日間平均は、前回の 47.3 件から 49.7 件と、ほぼ横ばいですが、11 月初旬から次第に増加傾向にあります。

第一波では、患者の急速な増加に伴い、東京ルールの適用件数が増加したため、今回の推移を注視する必要があります。

「入院患者数」ですね。⑥-1、入院患者数は前回の 1,354 人から 1,561 人と増加しました。陽性者以外にも、疑い患者を 1 日当たり都内全域で 150 人程度受け入れております。

今週、新規陽性者数及び接触歴等不明者数の増加比が 100% 上回っていますので、入院患者数は、前々週まで 1,000 人前後、前週は 1,300 人台、今週は 1,500 人台と大幅に増加しております。

そのため、各病院において、中等症以上の患者の占める割合が多くなってきており、長期化している医療機関への負担が一層強まると考えます。

陽性患者の入退院時には、通常の患者より多くの人手、労力と時間が必要です。患者数の増加に伴い、今後、医療現場では、依頼された陽性患者をすべて受け入れることが極めて困難な状況になります。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、新規陽性者数の急増に伴い、1 日 150 件を超える件数が続いています。日祝祭日は受入可能な病床数が少ない状況が続いており、軽症例は平日に入院を持ち越す事例が発生しました。

さらに今週は、平日でも、中等症以上の入院調整が難航するなど、病院の受入体制が厳しい状況になっています。

入院が必要な中等症以上の患者のさらなる増加にも対応できる病床の確保が急務です。このため、都は、医療機関に対し、救急等の受入制限や、予定手術を延期した場合の最大受入可能数などの診療体制の調査をしているところです。

次は、⑥-2、療養状況についてです。検査陽性者の全療養者数は、11 月 25 日時点で 3,711 人であり、内訳は、入院患者 1,561 人、宿泊療養者 816 人、自宅療養者 758 人、入院療養等調整中が 576 人でした。

保健所と共同し、東京 iCDC のタスクフォースにおいて整備した「宿泊施設療養/入院判断フロー」が活用され、宿泊療養者数は急増しました。

⑥-3 をお見せください。この青が入院で、黄色が宿泊療養、そして赤が自宅療養、緑は調整中でありますけれども、青の入院がすでに 50% を切りまして、宿泊療養の黄色がかなりの幅を持ってきております。

こうした状況、入院はですね、大体、前々週が 1,000 に対して 1,500 ですから 1.5 倍、患者さんはもう 1.6 倍増えていますのに、入院が 1.5 倍で収まっているのは、このフローがうまく活用されているおかげと考えております。

自宅療養者の増加に伴い、健康観察を担当する保健所の負担が増加しています。このため、自宅療養の適切な実施に向けた保健所の取り組みを支援することが必要であります。安全な自宅療養のための環境整備や、急変を含めた療養者のフォローアップ体制を地域医療が担うことへの検討が必要と考えます。

⑦-1、「重症患者数」です。

重症患者数は前回の 39 人から 11 月 25 日時点で 54 人と大幅に増加しています。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は 32 人、前週は 23 人でした。人工呼吸器から離脱した患者は 18 人、前週が 11 人です。人工呼吸器を使用中に死亡した患者さんは 4 人でした。

今週、新たに ECMO を導入した患者さんは 1 人、ECMO から離脱した患者さんが 2 人、11 月 25 日時点で人工呼吸器を装着している患者さんが 54 人で、うち 2 人が ECMO を使用しております。

今後、新規陽性者数の増加比が 4 週間継続しますと、新規陽性者が約 2.3 倍程度発生することが予想されます。重症患者数は、新規陽性者数の増加から少し遅れて増加してくることから、今後さらに重症患者数の増加が予想されます。

例年、冬季は脳卒中・心筋梗塞などの通常医療の入院患者が増加する時期であります。医療機関は、予定手術・救急の受け入れや通常医療制限をせざるを得なくなり、新型コロナ感染症重症患者のための病床の確保との両立が極めて困難になると思われま

す。重症患者の約 6 割は、新たに人工呼吸器を装着した患者であります。陽性判明日から、人工呼吸器の装着まで平均 4.1 日でした。そのうち、11 月 25 日時点で継続して装着している患者が 28 人で、うち 12 人が陽性判明日から 2 日以内に人工呼吸器を装着しました。

この陽性判明日から 2 日以内というのは、極めて早いんですけども、重症化してから発見され、救急などで搬送されてきた患者さんです。重症化するの、一般には 7 日から 10 日と言われておりますので、発症してから 7 日、10 日経ってしまっているということになります。

自覚症状に乏しい高齢者などが、受診が遅れがちになると考えられます。患者さんの重症化を防ぐためには、症状が出たら早期に受診相談するよう、普及啓発する必要があります。

今週、人工呼吸器を離脱した患者の装着から離脱までの日数の中央値は 6 日、平均値は 16.1 日でした。人工呼吸器の離脱まで長期間を要する患者が増加すると、重症患者数は急増する可能性があります。人工呼吸器管理を要する患者が複数入院している医療機関の負担が増えています。今後の推移と通常の医療体制への影響に厳重な警戒が必要です。

都は、レベル 2 の重症病床数 300 床の体制を視野に入れた診療体制の確保について、医療機関に依頼しました。

⑦-2、お願いします。11 月 25 日時点の重症患者数は 54 人で、年代別内訳は 40 代が 2 人、50 代が 9 人、60 代が 10 人、70 代が 22 人、80 代が 11 人です。70 代の重症患者数が増加傾向にあります。性別では、男性 44 人、女性が 10 人でした。

70代を中心とした高齢者層の重症者数が増加傾向にあり、重症化リスクの高い人への感染を防ぐためには、引き続き家族間、職場および医療・介護施設内における感染予防策の徹底が必要です。

基礎疾患を有する人、肥満、喫煙歴のある人は、若年であっても、重症化リスクが高いことを普及啓発する必要があります。40代、50代の方が増えております。40代の方たちは、大丈夫だろうと思って同僚とか、そういう方達にうつす可能性があるんですね。基礎疾患を持っているかどうかは、友達、周りの人に知られているわけではないと思います。油断しないで、若い人たちも感染を予防するということが大事だと思います。

今週報告された死亡者数は7人であり、そのうち70代以上の死亡者が6人いました。前々週の3人、前週の10人、今週の7人と推移しています。

私の方からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、意見交換に移ります。

まず、ただいまご説明のありました項目ごとの分析の内容につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、都の対応、対策に移りたいと思います。この場でご報告等ある方。

病院経営本部長お願いいたします。

【病院経営本部長】

かねてから整備を進めておりました旧都立府中療育センターを活用した専用医療施設でございますが、今月中に工事を完了いたしまして、12月16日の水曜日から、開設、運用開始の予定でございます。

規模は100床でございます。

対象となる患者さんは、中等症、及び軽症で医療的ケアが必要な方でございます。

特に、介護が必要な方ですとか、日本語や英語が話せない外国人の方など、他の病院で受け入れが困難な患者さんを積極的に受け入れていく考えでございます。

まず、二つの病棟32床から運用開始いたしまして、患者さんの受入状況に応じまして、他の病棟も順次運用をしていくこととしております。

以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

他にご報告等ある方、いらっしゃいますか。

よろしければ、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

本日も猪口先生、大曲先生、誠にありがとうございます。

「感染状況」については、4段階のうちの最高レベル、4段階目で赤色、「感染が拡大していると思われる」、「医療提供体制」については、4段階のうち3段階目のオレンジ色、「体制強化が必要であると思われる」との総括コメントを頂戴いたしております。

「感染状況」は、急速に感染が拡大していて、極めて深刻な状況になる前に、感染拡大防止策を早急に講じることが必要であること。

特に、重症化リスクの高い高齢者の新規陽性者数が増加している。高齢者への感染の機会を、あらゆる場面で減らすことが必要であって、感染経路については、家庭内での感染が最多であること。職場、施設、会食、接待を伴う飲食店など、多岐にわたる場面で感染例が発生をしていること。

重症患者数については、前回の39人から54人と大幅に増加して、70代以上が約6割に上ること。

今週報告された死亡者7人のうち6人が70代以上とのご指摘をいただいております。

これらを踏まえまして、都民・事業者の皆様方へのお願いでございます。

都民の皆様方には、今一度、家族・職場・施設において、自ら基本的な感染対策であります「手洗い、マスク着用、3密を避ける」ことに加えまして、こまめな消毒、換気を改めて徹底をしていただきたいと存じます。

また、できれば、できるだけ不要不急の外出を控えてください。外出する場合には、対策を万全にしてください。

体調が悪い方は、会食への参加を避けていただきたい。また、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方も同様でございます。

そして、重症化リスクの高い方々と同居されているご家族の皆さんも、できるだけ会食への参加を控えてください。そして、帰宅時には、手洗い・消毒などの徹底をお願いいたします。

「防ごう重症化 守ろう高齢者」を強く意識して、対策をお願い申し上げます。

そして、事業者の皆様方へのお願いでございます。

昨日要請いたしました、営業時間の短縮へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

そして、ステッカーの掲示とともに、継続的に感染防止対策の確認を行っていただきたい。

利用者に対しましても、対策への協力を呼びかけていただきたいと存じます。ぜひ、お店の方にご協力くださいということを、利用者の皆さんにも呼びかけていただきたい。そのポスターも作っておりますので、活かしてください。

職場での感染事例も報告されております。

オフィスだけではなくありません。休憩室などで感染するケースもあって、こまめな換気、消

毒の徹底など、くれぐれもご注意をいただきたいと存じます。

それからですね、最近やはり、テレワークが大分薄れてきたということ、働く方々からよく耳にします。テレワーク、そして時差出勤の定着を、より強力に進めいただきますようお願い申し上げます。

次に、「医療提供体制」でありますけれども、今、病院経営本部長からの報告がありましたように、現在、専用医療施設として整備を進めております旧都立府中療育センターでございますが、今月中の工事の完了となります。

開設は12月16日の水曜日を予定しております、規模は100床、他の病院で受け入れが困難な患者さんを受け入れていくということでもあります。

これ以上の感染拡大を何としても食い止め、経済社会活動への影響を最小限に止めるために、都民・事業者の皆様方には、「新しい日常・正しく予防」、この言葉を改めてご確認いただき、行動の徹底をよろしくお願いいたします。

以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第21回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。